



1964年におじいさん（敏明）が写専を卒業されて、1982年にはお父さん（幹夫）。そして娘さん（奈穂）が昨年卒業。三代に渡って写専で写真を学び、営業写真のカメラマンとして頑張っています。幸せな笑顔を残す仕事って大きな意味がありますよね。素晴らしい仕事を誇りに三人が前を向いて歩いている。嬉しいことです。
杉本敏明 × 幹夫 × 奈穂

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol.50

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY



幼稚園児に「カメラおじさん」
って呼ばれている。

「人のご縁を大切に日々仕事に励んでいます」と幹夫さん。それはおじいさんから孫娘へと受け継がれている。小さな子どもたちが「カメラおじさん」と笑顔で集まってくるのもステキなご縁です。

1983年卒業の杉本幹夫さん（56）に「写専時代の思い出は？」「営業写真のクラスメイトたちとフェリーで写論局に行ったんですよ。コレが楽しかった。作品撮りは2の次で仲間たちと騒ぐことばかり（笑）。実はこの旅行で嫁と知り合ったんです（笑）。旅ってこんなステキな奇跡が起こるんですね。」少しおのろけをいいただきました。写専の思い出は次々と出てくる。写真には残っていないけど杉本さんの脳裏の映像には素晴らしい作品が残っているようだ。お父さんから見た娘さん（奈穂）はどうでしょう？

「おやおたつきーで不安要素が山盛りデス」なんのことやら意味不明です（笑）。現在は三重の川地写真館に勤務している娘さんから見たお父さんは「よくも悪くも子どもっぽいところがあるんですよ（笑）。友達からあんなところ

お父さんはカワイイお父さんやねとよく言われます（笑）。きつと、永遠の少年なんではないでしょうか。若い心をつまでも持ち続けているっていいじゃないですか。若いセンスが写真にも学校アルバムにも反映されてカッコいいじゃないですか。

親子で食事にはよく出かけますか？「はい！よく行きます。居酒屋で二人で飲むんですが、いつもくだらない話で盛りがります（笑）。」親子の仲の良さが目に浮かびます。「無駄話ばかりじゃなく、ちゃんと真面目な話もするんですよ（笑）。学校アルバムのデザインやアイデアの出し方なんか良くしますね。楽しい意見交換です（笑）。」この親子には笑い声が絶えない。笑うから幸せが来る。だから幸せの写真が撮れる。いつまでも笑顔のある生活を送って下さい。（は）